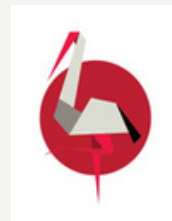


社会福祉法人 福田会 週次報告書

2023年9月12日 / Vol. 053



ご支援総額

2023年9月5日までの寄付総額

125,796,310 円

寄付金使用総額

3378933.27 zł (約1億137万円)

8/28(月)～9/10(日)の期間中の寄附金使用額

8046.21 zł (約24万円)

8月28日(月)～9月10日(日)の支援活動

食材支援 (毎週金曜日) ※祝日等で変動あり

一人あたり50złの予算を設け、1週間分の昼食用食材の購入を支援。

9月1日(金) 25家族が参加 合計 3208.53 zł (約11万2千円)

9月8日(金) 23家族が参加 合計 2928.93 zł (約10万2千円)



ミサンガ作り (週二回)

日本の支援者の方へお渡しするお礼の品として、避難民の方と週2回ミサンガ作りを実施。

参加者の引っ越しや、9月から学校が始まったこともあり、9月のミサンガ作りは少人数での実施となった。



現地の動向

労働市場における、ウクライナ人労働者に対する感情

労働市場において、ポーランド人はウクライナ人労働者に対して友好的である。

これは、ポーランド西部の都市カルパツ(Karpacz)で開催された第32回経済フォーラムで、パーソナル・サービスが発表した調査によって証明された。

ポーランド人の16%だけが、ウクライナ人が自分の仕事を占領していると答えた。

2023年3月の調査では、この数字は若干高く、21%であった。

しかしながら、調査によると、ウクライナ人労働者に対する態度は、他の国籍の労働移民に対するものよりはるかに良好である。

ポーランド人の52%がウクライナ人と一緒に働きたいと考えているのだ。

年齢が高くなるほどウクライナ人労働者と仕事をしたいという気持ちが強く、35～44歳と45～54歳の半数、55歳以上の64%がそのように示している。

18歳から24歳の若者では、この数字は36%に過ぎない。

もともと文化的に類似性があると言われていた両国だが、各支援団体のウクライナ人避難民に対する社会的統合支援の成果が、同調査結果に表れていると言えるのではないだろうか。

